

南すおう地域における 大豆の生産拡大

柳井農林事務所農業部



成果をあげるために2つの課題を設定

需要に即した品目の生産拡大 成果

需要のある品目としての

(H26目標 大豆192 t)

大豆の
生産拡大 = 面積拡大 × 単収向上

1.1

集落営農法人の設立と大豆の導入支援

1.2

機械連携を中心とした生産体制の整備

2

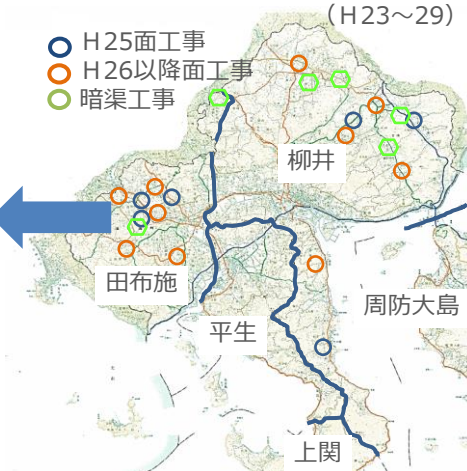
現場における大豆栽培技術の向上、定着

面積拡大にかんする課題を解決する。
(新規法人への大豆導入支援と体制整備)



国営事業を契機とした農地集積と法人設立

H25. **新規3法人**設立（計28ha）国営緊急農地再編整備事業
営農計画の作成支援（H23~29）



3法人の大豆栽培面積
0 ha → **14.2 ha**

土地利用協を再編・強化して 面積拡大に対応する

再編後の体制

構成員

農業法人+関係機関
(事務局 J A)

+ 個人農業者

再編のポイント

一定規模以上の個人農業者も部
会への参加を可能とする。

部会

大豆部会、小麦部会、野菜部会

部会ごとに取組みを行う。

取り組み内容

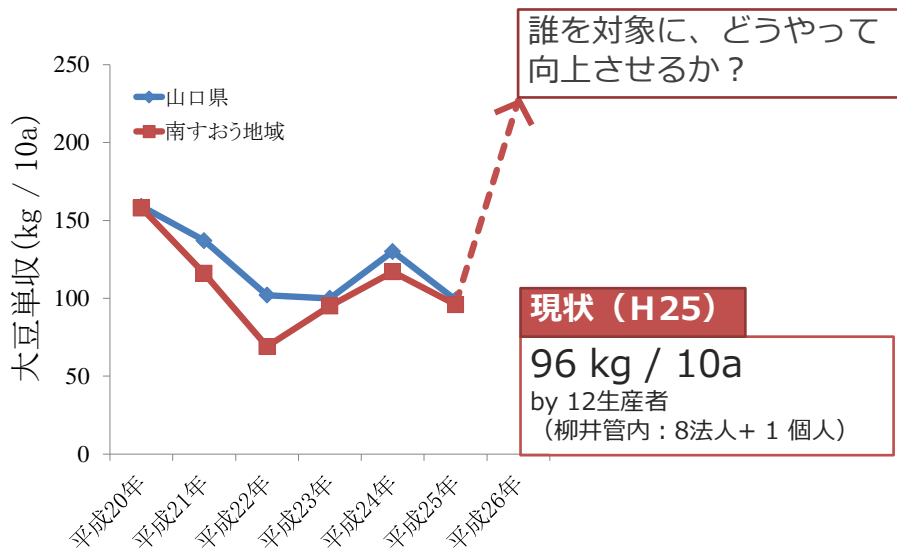
- ①産地育成
- ②大豆・タマネギ機械の導入
- ③栽培技術向上対策(講習会等)
- ④**作業受委託・共同利用機械調整**
- ⑤販売方法・計画出荷の検討

**大豆コンバインの配備
計画から受委託調整ま
で一体的に協議。**

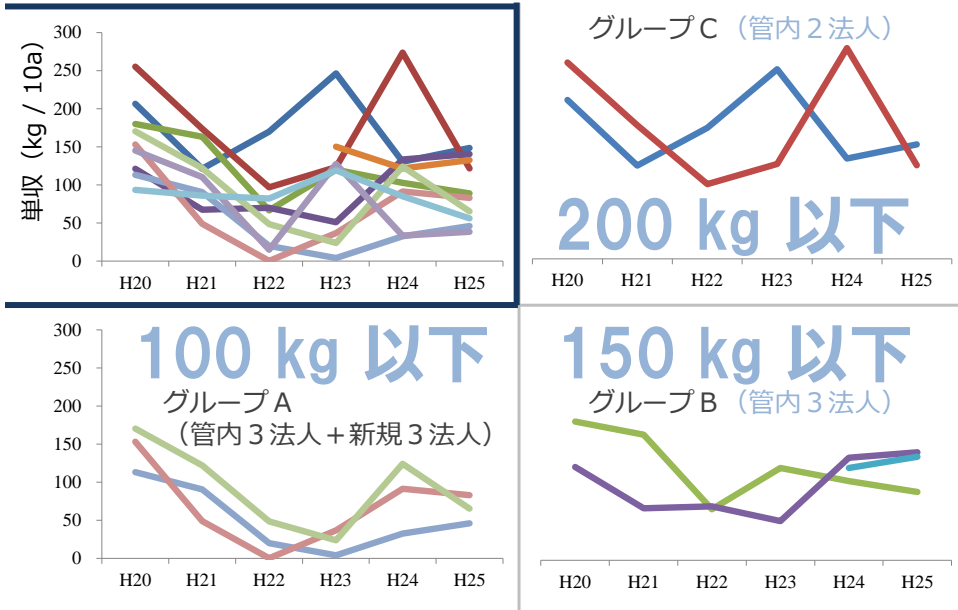
* 南すおう地域土地利用型作物生産組織連絡協議会の略称



南すおう地域の単収の現状



過去の単収から法人をグループ化する



過去の単収から法人をグループ化する

グループ (6年間の平均単収)	柳井管内の法人数	※参考：グループの単収 平均値
A (100 kg / 10a 以下)	6 (新規設立含む)	71 kg / 10a
B (150 kg / 10a 以下)	3	111 kg / 10a
C (200 kg / 10a 以下)	2	172 kg / 10a

※なお、今年度の管内の大豆生産者はすべて法人である。

ターゲットと活動方針を定める

生産者にとって単収向上に取り組むメリット

- ・収入の増加
- ・畑作技術の獲得（小麦、野菜にも応用可能）
- ・地域の信頼や自信の獲得

ターゲットは？

- ・大豆が経営の主体だが、収量が低い。
- ・栽培経験が浅く技術力が欲しい。
- ・今後、農地集積を進めるためにも、実績がほしい。

該当するのは？

グループA(新規含む)、グループB



普及指導活動

- ・平均単収 + 50 kg以上を確保できる技術を提供。
- ・設備投資を必要としない。作業精度の向上を重視。
- ・対象者が少ないため、現地での直接指導を行う。

現場で低収量の原因を見つける

グループAの法人の特徴

出芽不良
苗立ち不足



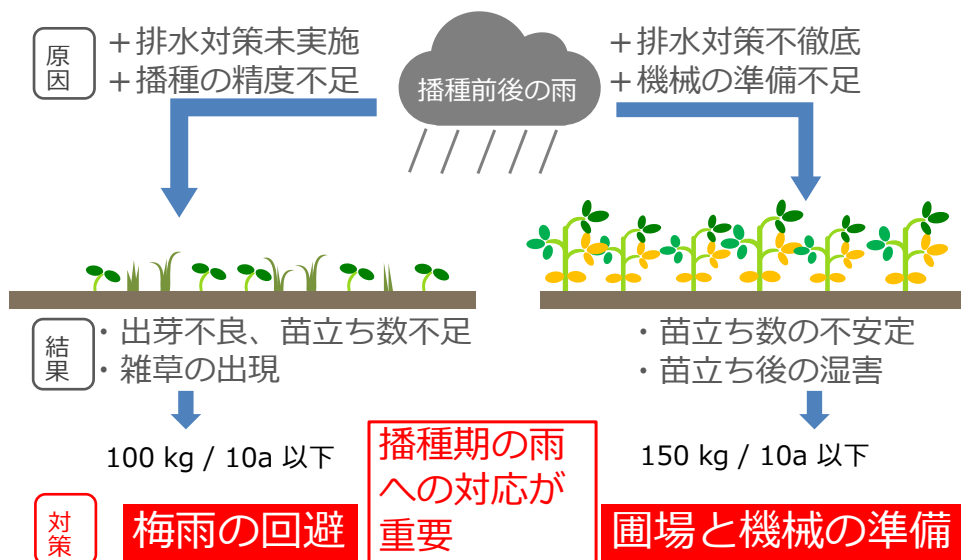
グループAの法人の特徴
雑草害



グループBの法人の特徴
生育期間中の湿害
苗立ち数の不安定



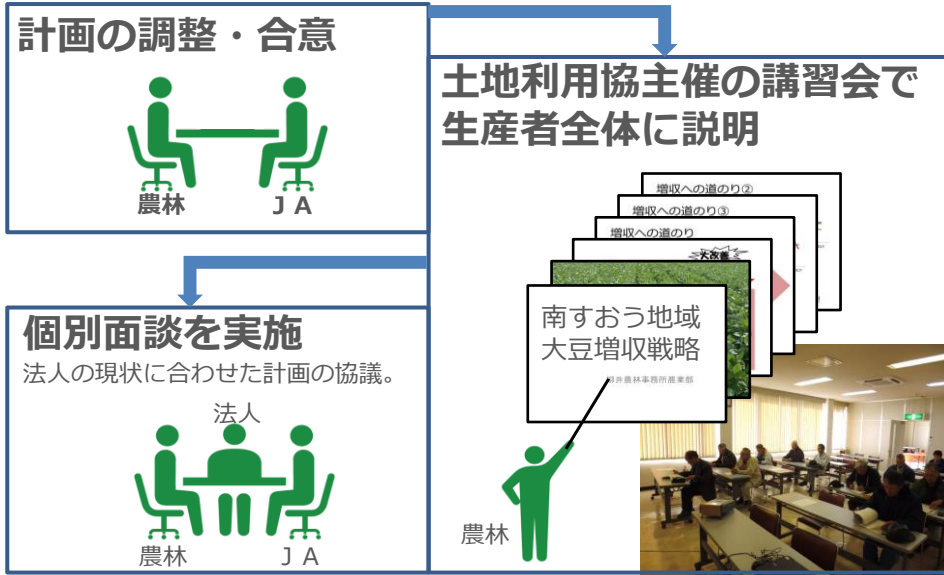
観察結果を整理して対策を考える



活動計画として組立てる

テーマ	梅雨の回避	圃場と機械の準備
対象	グループ A (新規含む) 6 法人	グループ B 3 法人
目標	播種精度を高めて苗立ちを確保する！ 150 kg / 10a	排水対策を行って適切に播種する！ 200 kg / 10a
必要な技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最低限の排水対策 ・ 7月中旬播種 ・ 密植（3条播き） ・ 現場での機械調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明渠と落水口の連結 ・ 明渠と畝間の連結 ・ 機械の事前準備（播種機の調整など）
指導方法	活動対象が少ないため、現地での 直接指導 を最重視	

計画を実行する①(計画の説明と合意)



計画を実行する②(栽培暦の作成)

必要と思われる作業をすべて書いています。各法人の栽培方針に基づき、ポイントを絞って作業を行ってください。 JA南すおう 農林事務所 農産部

	5月	6月		7月		8月		9月		10月		11月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育				播種適期		開花期							収穫
防除			雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)	雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)	雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)	雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)	雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)	雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)	雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)	雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)	雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)	雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)	雑草防除 ☆ 土壌改良剤散布 (☆ 茎葉処理剤散布)
水管理	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除	排水 ☆ 弾丸噴霧、心土処理 ☆ 雑草防除
その他	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布	土壌改良資材の散布
管理のポイント		排水対策	排水対策	排水対策	排水対策	梅雨明け	梅雨明け	梅雨明け	梅雨明け	梅雨明け	梅雨明け	梅雨明け	梅雨明け
生育状況など													
作業													
薬剤													
エック													
種													

排水対策 (6月)

梅雨明け 3条播き (7月)

グループA用 & 通常版の2種類

計画を実行する④(現地指導)

額縁明渠の設置
(グループA)



梅雨明け3条播種
(グループA)





排水対策の徹底 (グループB)



その他 (生育期間中の活動)
現地巡回 (月1回)
栽培講習会の開催
現地講習会の開催
栽培管理情報の作成・配布

その結果

グループA

6法人のうち5法人が梅雨明け播種を実行した。

グループB

3法人のうち2法人が播種前に排水対策と機械調整を行って適期播種を実行した。



指導内容を実行した法人では 単収が向上した

グループ (目標)	H25 単収 kg / 10a	H26 単収 kg / 10a	目標対比 %	取組み
1	46	104	69	播種×、排水対策×
2	83	143	95	○
3	65	121	81	○
4 A (150kg)		179	119	○
5	(新規設立)	111	74	○
6		27	18	排水対策×
7	89	109	54	○
8 B (200kg)	135	158	79	○
9	140	62	31	排水対策×

南すおう地域の単収が向上した

南すおう地域の単収

96 kg (/10a、H25)



119 kg

うち、活動対象法人の単収

グループA

55 kg → 114 kg / 10a (207%)

グループB

125 kg → 109 kg / 10a (87%)

これらの活動の結果、面積と単収が向上して大豆の生産が拡大した。

生産拡大

※目標の192 tには届かなかった（目標比55%）。

1.5倍

H26産 105 t ← H25産 66 t

=

面積拡大

1.3倍

×

単収向上

1.2倍

89ha、14法人
← 68 ha、11 法人

119 kg / 10a
← 96 kg / 10a

残された課題

なぜ目標に届かなかったのか？

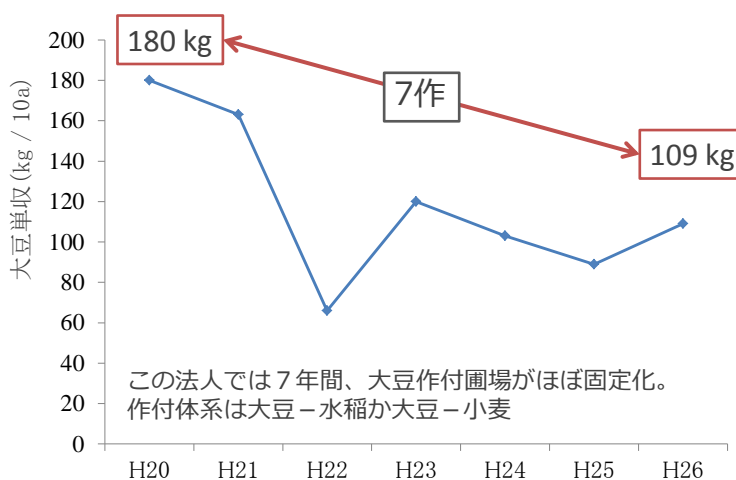
特に単収向上について

グループ (目標)	H25 単収 kg / 10a	H26 単収 kg / 10a	目標対比 %	取組み
A (150kg)	46	104	69	播種×、排水対策×
	83	143	95	○
	65	121	81	○
	(新規設立)	179	119	○
		111	74	○
		27	18	排水対策×
B (200kg)	89	109	54	○
	135	158	79	○
	140	62	31	排水対策×

- ①指導内容を実行しても目標に届かない。
 ②そもそも実行しない。 **何か別の原因がある。**

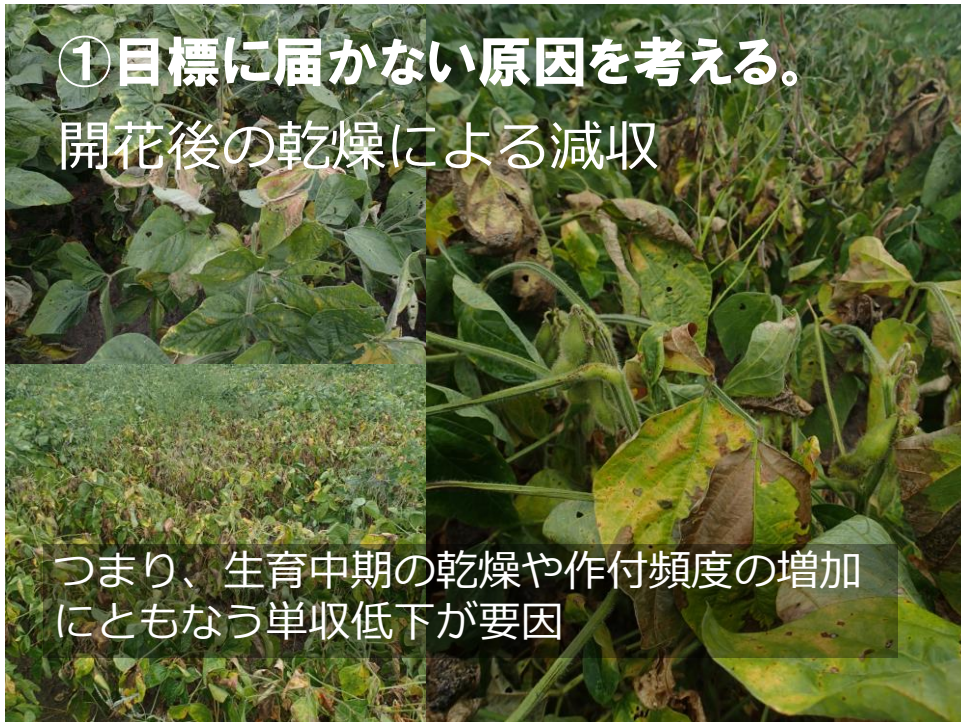
①目標に届かない原因を考える。

大豆の作付回数増加に伴う単収の低下



この法人では7年間、大豆作付圃場がほぼ固定化。
 作付体系は大豆-水稲か大豆-小麦

法人no.7における大豆単収の推移



②指導内容を実行しない原因を考える。

法人の心の声



言ってることは分かるけど、

・うちでは誰がどうやるのか、はっきりしないんだよね。

・作付面積が大きいし、取り組む余裕はないね。

➡ 単収向上よりも営農計画をまず支援

目標の達成に向けた指導内容の改善

①実行しても目標に届かなかった法人

→ 土壌改良や窒素施肥など作付け頻度増加への対応
灌水など生育中期の管理技術の向上

②指導内容を実行しなかった法人

→ 作業体制の確立や経営全体から見た作付計画作成などの支援

H27年の普及指導計画

需要に即した品目の生産拡大

(H27目標 大豆 369 t)

需要のある品目の生産強化 (中項目)

大豆の
生産拡大 = 面積拡大 × 単収向上

農地の集積 × 農地への大豆作付

集落営農法人の
設立

作業体制の確立
や経営全体から
見た作付計画作
成などの支援

作付け頻度増加
への対応
生育中期の管理
技術の向上